

カネミヤ

廃棄ビニール袋資源化へ

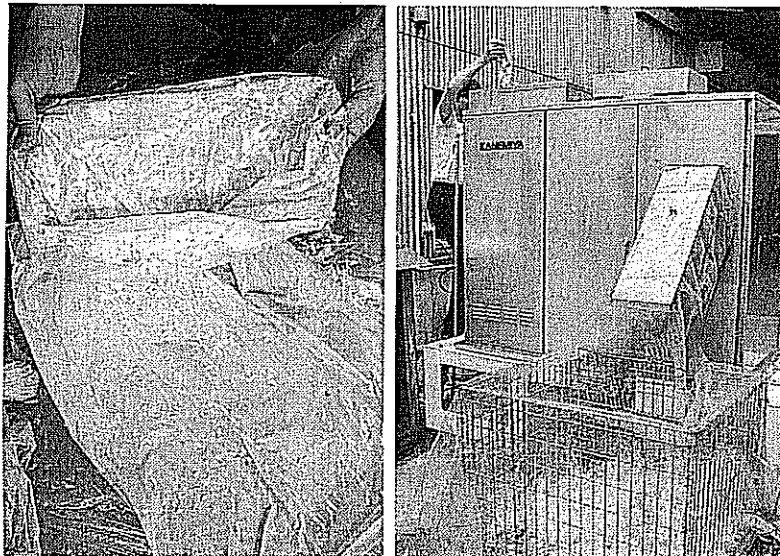
自動分別洗浄機を開発

短時間で処理 プラ原料に再利用

環境機器や工作機械部品を手がける、カネミヤ（本社半田市八軒町、間瀬隆夫社長）は、廃棄ビニール袋を再資源化するための自動分別洗浄処理機を開発、八月から販売を開始する。使用済みの汚れたビニール袋を短時間で分別・洗浄・脱水する装置で、ビニールに付いた汚れが取り除かれ、プラスチック原料などに再利用できる。販売目標は月十台。

（半田・近藤直樹）

環境保全の気運が高まり燃料やプラスチック原料としており、日本の廃プラの中、廃プラを「ミ固形」に再利用する動きが強まりが中国に運ばれ、玩具や文具など姿を変えて、日本の百円ショップで売られている。しかし、汚れた廃プラは再利用が不可能。ビニール袋の場合、液状の食料品や医薬品の入った袋、空き缶入れ用などに付着した汚れを除去するのは手作業で手間がかかるため、大半が廃棄処分されている。



マヨネーズが付着したビニール袋（左）を処理機に入れると自動分別洗浄される（右）

袋自動分別洗浄処理機「BuntSen」（製品名）は、汚れたビニール袋を投入すると、付着物とビニールを分別した後、高回転の遠心分離と摩擦を利用して洗浄・脱水する仕組み。

電解水（アルカリ、酸性）を用いて、付着物の臭いを取り除く機能も付いている。処理能力四百キログラム/時と二百キログラム/時の二機種。洗浄水の少量化と短時間処理が特徴で、四百キログラム仕様では水道使用量二十リットル/時で、六十リットルの袋をわずか二秒で洗浄する。

価格は四百キログラム仕様で五百二十万円。直接販売するほか、中部地区では自動販売機オペレーター、タケシヨウ（半田市）の空き缶リサイクル子会社・クレス名古屋と、容器包装リサイクルシステムエンジニアリングの日青鋼業（浜松市）と販売代理店契約を結んだ。

同社が開発したビニール